

郵便



知新聞

第廿號

明治六年二月

新貨三錢

驛逋察檢

東京横山町三丁目

太田金右衛門



凡例

遠近の人民互に懃懃と相通ト事理ト古遠ト事理ト如ク
 奇一故小西洋諸國苟も文のな名ある地と云ふは其の形國法局に改
 まりて國內國外と論じて凡百の事務を細察し 併に其の無異
 諸常法を采用し以て日子刻し其の刻し之の幾人一家
 諭し戸を小税に概おれ國人善く其の便を以て其の幾人一家
 此新報を刊行すも度く速達し其の幾人一家の便を以て其の幾人一家
 古今に變と知り以て世に利益あり其の幾人一家の便を以て其の幾人一家
 此を見て天下の事を知らざるは其の幾人一家の便を以て其の幾人一家
 班と稱し

郵便報知新聞第廿八號 明治六年第二月

○僧侶位階自今廢セラレ候事

○自今年齡ヲ計算ハ儀幾年幾月ト可相數事

但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月
 數ハ本年ノ日數ト通算シ十二月ヲ以テ一年ト可

致事

○人ヲ殺スハ國ノ大禁ニシテ人ヲ殺ス者ヲ罰スルハ
 政府ノ公權ニハ處古來ヨリ父兄ノ為ニ警ヲ復スルヲ
 以テ子弟ノ義務トナスノ風習アリ右ハ至情不得止ニ

出ルト虽氏畢竟私憤ヲ以テ大禁ヲ破リ私義ヲ以テ公
推ヲ犯ス者ニシテ固ヨリ撞殺ノ罪ヲ免レズ加之甚レ
キニ至リテハ其事ノ故誤ヲ問ハズ其理ノ當否ヲ顧ミ
ズ復讐ノ名義ヲ狹ニ濫リニ相構害スルノ弊徃々有之
甚以不相濟事ニ候依之復讐嚴禁被仰出小糸令後不壹
至親ヲ害セラル者於有之ハ事實ヲ詳ニ速ニ其筋ハ
可訴出小若無其儀旧習ニ泥ニ撞殺スルニ於テハ相当
ノ罪科ニ可處小條心得違無之様可致事
右御布令アリ

○北條縣より報知

管下美作國久米北條郡桑下村住貫属前原鷲藏なる者
居宅を新建せんと所持ハ山服を鑿うが一つ大小の奇石
數多出づ其形蛤蚘かきの如きも其あり或ハ螺かきに似たるも
あり半う石いおるもあり全く貝かい化けせしもありしも終
評曰此國の海うみに遠とほきる世よの知しる處ところありし既すでに海うみに
距とほるも凡およ十四五里とほなるもバ化けせし貝かいのも謂いは
れ嘗かつて作陽誌さくやうしに閱みたは小山中の塩氣しほき亦また自ら貝かい地
生なるも形かたちらんとあり木きど其原由そのゆゑを詳くわしくせず之のを
貴社きやうに托たくして識者しやくしやの説話せつわを待まちつ

○廣松縣より報知

遠州三方原も古來不毛の瘠地なりしが士族江川永脩
を以て此地に移住せし初より衆不先ちて自ら耕作
し茶圃以閑く事數十反不及べり且道路の屈曲して人
馬とも不勞する事以憂ひ同輩の壯年子以役して財以
抛ち修繕せしむば縣官其尽力以賞し金二千匹并農具
以賜りし也形り

○川上某論説ノ畧

抑大政ノ維新ヨリ既ニ六歳ヲ閱スト雖モ全國ノ人民
未ダ一般ニ政令ヲ遵奉スルヲ能ハサル者ハコレ必ス
無學無教ノ所為ナリト雖モ亦學教兩道ニモヨルナリ

元來學ハ漢土ニ據リ教ハ印度ノ教法ニシテ未ダ此文
明ノ世ニ當テ万民ヲ教化スルニ足レリトセズ頃日改
府中小學ヲ各府縣ニ御設立アリシ由ヲ拝承ス付テハ
此學ノ盛大ニ至ルハ必然ノ勢ニシテ教法モ亦更ニ改
革セザルヲ得ズ夫レ古ハ真言ニ空海アリ真宗ニ親鸞
アリ法華ニ日蓮アリ何レモ昔日ノ一巨魁ニシテ遍ク
國內ニ布教セシヨリ今日各宗ノ僧徒ニ至テハ只管閑
祖ノ遺カヲ頼ミ己レハ何ノ才識モナク邪説ヲ唱ヘテ
無智ノ民ヲ誘導シ各宗各派ニ分裂スルヲ所謂教法ノ
封建ナルモノニシテ其弊容易ニ脱シ難シ去レハ之ヲ

除クノ術ハ先ツ理學ヲ開クニアリ理學盛ニ行ハルレ
バ自然ト愚ナル仏教ヲ信用スルモノ無ルベシ願クハ
政府此機ヲ失ハズシテ更ニ一ノ嚴令ヲ出シ中小學ノ
設立ニ隨ヒ四民長幼ヲ不論閑暇アラハ入學ニ共ニ化
域ニ進マシメバ人民其身ヲ修禦スルノ知識ヲ開キ政
教其途ヲ一ニシテ政米ノ開化ト頡頏スルニ至ルベシ
是余最モ懇願スル處ナリ

○木更津縣權令柴原和參事國司仙吉說教ノ儀ニ付教
部省へ言上書ノ畧

智鏡院日進ト申著下總國中山法華經寺日因代ト稱シ

當管下ヲ巡廻致シ安房國安房郡下真倉村法蓮寺外三
ヶ寺ニ於テ說教致シ小處寺前ニ緋ノ小旗ヲ建鬼子母
神ノ厨子ヲ持參シ閑扉致シ法樂加持ト唱へ宗旨ノ者
ヨリ賽錢等取込シ始末說教上ニ有之間數儀ニ付四ヶ
寺取調シ得共申立ノミニテハ信用難致右日進ナル者
果シテ法華經寺代ノ者ニ小哉右様ノ者說教ヲ名トシ
妄ニ巡回致シテハ教化風俗ニ關係シ甚々不都合ニ付
右等ノ所業不相成旨其筋へ嚴重御達被下度云々
○群馬縣下松浦水太郎より報知
上州甘樂郡富岡町へ今般新ニ小養蚕會社と設け有名

此教師を雇ひて盛ん小蚕業を興へんとの見込ありと其規則を總て均一に法めて自他の利益を得る事と成主とをとぞ

○静岡縣藤村某陽曆ノ儀ヲ建言セシ大意

謹テ按スルニ陰曆陽曆ノ差アルヲ嘗テ先哲ノ唱ル所ニシテ臣等少年ノ頃ヨリ徃々耳ニ觸ル、ト虽凡性質懦弱ニシテ未ダ其術ヲ究ムルニ至ラズ然ルニ今日朔既ニ陽曆ニ革マル之ニ依リテ見レハ陰曆ノ世ニ行ハル、ト久シテ毫髮ノ差ヨリ千里ノ誤ヲナセルヲ豈慨嘆セザランヤ去レ凡今幾多ノ人民此雜別ヲ知ラズ

シテ其因習ノ謬リニ安ンジ此ノ新規ノ使ヲ知ラス依テ竊ニ陰曆ヲ移シテ太陽曆、側ニ挿入シ照會シテ見易カラシメントス之ヲ用フルト久シキニ至リ漸々純粹ノ陽曆ニ帰センヲ疑ヒナシ願クハ前条ノ草案ヲ御下問アラントヲ臣信熙臣重固恐惶頓首

○ジヤツパンヘラルト新聞抄譯方今伯靈ニ於テ開板シタル歐米各國海軍使用大砲ノ要説
右大砲ノ口徑ハ英米ノ器ヲ以テ第一トス然シ合衆國ニ用フルロトマン氏ノ千斤砲ハ他國ニ用フル施條砲ニ比スレバ其功甚ダ劣レリ且英國ノ器ニ比シテ明ニ

其甲乙ヲ論ジ得ベシ別ニ英國ウールウツチ氏ノ大砲
 口径十一寸六寸及七十二寸ノ口径ナルモノアリ是ハ
 火藥百廿斤乃至八十五斤ヲ以テ重サ六百斤以上七百
 斤ノ彈丸ヲ射ルベシ仏國ノ大砲十寸三十分ナル物ハ
 四百七十五斤ノ彈丸ヲ放發シテ之ニ裝スル火藥ハ七
 十九斤ヲ要ス○丁抹國人用フル所ノ大砲十一寸廿四
 分ニシテ口径ナリ裝藥六十六斤ヲ以テ能ク四百六十
 二斤ノ彈丸ヲ放射スベシ又丁抹國八九寸及七十寸口
 径ノ大砲三百十一斤以上四百斤ノ彈丸ヲ裝スル物ヲ
 用フル○和蘭國海軍ニ於テ只九寸ノ大砲ヲ用フルノ

ミナリ○伊太利國ニ用フル處ノ大砲ハ口径ニシテ口
 徑十寸火藥六十斤ヲ以テ重サ四百斤ノ彈丸ヲ放射ス
 ルナリ奧地利國ハ口径ニハ寸又八九寸ノ大砲ヲ使用ス
 ○日耳曼國ノ海軍ハ口径十寸廿二分以上十一寸五分
 ナリクルツプ氏ノ元込ハ裝藥七十斤以上八十八斤ニ
 シテ四百十一斤以上五百十三斤ノ彈丸ヲ發射スル大
 砲ヲ使用センヲ要ス併シ方今用フル大砲ハ元込ニ
 シテ口径八寸又八九寸ノモノナリ○魯西亞ニ於テハ
 曾テクルツプ氏ノ元込大砲十一寸ノ物ヲ用ヒ瑞典及
 西班牙ノ海軍ニ於テハ尚裝藥五十二斤彈丸三百十

六寸ニシテ元込口径九寸ヨリ重カラザル物ヲ用フ○
 クルツプ氏ノ元込鋼鐵砲ヲ日耳曼魯西亞白耳儀及ビ
 奧地利ニ於テハ使用セリ此外奧地利ニ於テアルムス
 トロング氏口径ノ大砲ヲ用フル○仏國ニ用フル處ノ
 元込ノ式法ハ和蘭西班牙瑞典之ヲ採用セリ併シ其製
 造方ハ独リ瑞典ノミ鑄鉄ヲ以テ此大砲ヲ造ル○英國
 アルムストロング氏或ハウールウツチ氏ノ口径砲ハ
 英吉利伊太利丁抹奧地利ノ海軍之ヲ用フ○右ノ如キ
 大ナル口径ノ青銅砲ハ北日耳曼ニ於テ試験シ且アル
 ミニニス人曾テ右青銅ノ大砲口径八寸ナル物ヲ以

テ備ヘシ事アリト虽氏我國ニ於テハ之ヲ使用セザリ
 シト○大砲ニ用フル火藥ニ於テハ英國細球狀ノ火藥
 ヲ曼迄只英蘭伊ノ三國ニ於ニ用フルノミナリ○魯西
 亞白耳儀奧地利ノ海軍ニ於テハ從來ノ火藥ヲ他國ニ
 テ用ヒシ間稜角狀ノ火藥ヲ使用セリ併シナガラ仏國
 瑞典ノ海軍程ナク英國新製ノ火藥ヲ採用スルニイタ
 ラン

○府下八町堀元徳島邸跡へ病院と建られ則侍醫佐藤
 氏と始各医出張ありて普く救療の御旨意あり依て
 華族堀田侯右建築費用の内へ金千円献納ありり

○今度陸軍大輔殿より御達より近衛砲兵一番二番大隊騎兵共歩兵一番より六番迄解隊伍長以下免役と相成り且兼く御決定の解隊箇條書不照し可取計旨なり

○府下西国西廣小路にて是迄奥行せし芝居去年中取拂ひ相成りしが今度中崑坐ハ蛸壳町元銀坐新屋敷趾喜昇坐ハ久松町旧勝山邸趾ハ願海相成りより

○第一月中流車旅客員共貸金総計

- 一 旅客員十萬二千六百五十六人
- 一 貸金三萬千五百二円三十三銭余

報知新聞第廿八號 終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣ハ遠く隔る國々ハ物情を互に相通せしむ且
 府下各州の細大を悉く各州の報知しつゝも依りて海内を以て及中善徳の
 榮名を暴徒の捕縛機械産物の新登の蠶絲織紡漆器陶器米穀菓菜その他
 諸品製造耕作の多寡豊凶震雷風雨水火の災難寒暖季候の連日して少
 くも異りたるを皆夫々に筆記して物文記述を以て時々の成載して是を流
 して發見及び賣弘願を送り越し拾りての成希し

一 郵便報知新聞一冊價物貨三銭毎月五号宛出板
 當時發見号より先ハ一冊分引受做向と一割引
 同四十冊分ハ一割半引
 一ヶ年分引價の向ハ二割引

有通割合お返前金并郵便賃往復上各号發見項を逐に郵便より届り申

東京横山町三丁目
 大田金右衛門

